

2021/04/23 23:25

国内最古級 2500年前の船材 弥生前期後半、中津野遺跡から出土 専門家「外洋航海の証拠」



国内最古級とみられる約2500年前の準構造船の舷側板＝23日、霧島市の上野原縄文の森

鹿児島県立埋蔵文化財センターは23日、南さつま市金峰の中津野遺跡で2008年度に出土した木材が、約2500年前（弥生時代前期後半）の「準構造船」の部材と判明したと発表した。国内の出土例を100年ほどさかのぼり、最古級という。専門家は「高度な造船技術で、外洋航海が行われていたことを示す証拠」と評価する。27日から上野原縄文の森（霧島市）で公開予定。

[【写真】南さつま市金峰の中津野遺跡で出土した舷側板\(2009年2月撮影、県埋蔵文化財センター提供\)](#)

準構造船は丸木舟から発展し、積載量を増すため側板などを取り付けたもの。

センターの寺原徹調査課長によると、木材はカヤ製の板で、長さ2.7メートル、幅30センチ、厚さ5センチ。18年から本格的に調査し、形状やほぞ穴から準構造船の舷側板と判断した。その後の放射性炭素年代測定で、紀元前5～4世紀の木材と分かった。

板は水の抵抗を防ぐためか、片面が丁寧に削られている。また別の舷側板と連結した跡があり、船の全長は6メートル程度と推定される。

中津野遺跡は東シナ海につながる川に面し、弥生時代の交易を示す高橋貝塚も近い。板の出土場所は湿地だったため、腐らずに残った。船での役目を終え、井戸枠など別の用途にリサイクルされていたと考えられる。

弥生前期の準構造船の部材は静岡や広島でも出土。古代以前の船に詳しい柴田昌児・愛媛大学埋蔵文化財調査室長は「他の2例は紀元前3世紀頃と推定しており、中津野遺跡の船が最古級となる」として「東シナ海を介し、造船技術も大陸の影響を受けていたのでは」と話した。

遺跡は国道270号宮崎バイパス改築工事のため、県が06～17年度に発掘した。出土品の整理と調査は継続中。



南さつま市金峰の中津野遺跡で出土した舷側板（2009年2月撮影、県埋蔵文化財センター提供）

（公財）鹿児島県文化振興財団 鹿児島県上野原縄文の森 のHPの複数頁より

[日本最古級の船の舷側板\(げんそくばん\)を展示しています！ - 鹿児島県上野原縄文の森 \(jomon-no-mori.jp\)](http://jomon-no-mori.jp)

上野原縄文の森では、4月27日(火)より企画展示室にて中津野遺跡(南さつま市)から出土した日本最古級の船の舷側板を展示しています。

中津野遺跡(南さつま市金峰町)出土の舷側板

平成20年度に埋蔵文化財センターが国道270号(宮崎バイパス)改築工事に伴い発掘調査を実施した中津野遺跡で出土した木製品が、国内最古級となる弥生時代前期後半(約2,500年前)の準構造船の舷側板(げんそくばん)であることが判明しました。

準構造船:くり船に側板などの木材を組み合わせて、積載量が増えるようにした船

舷側板は、4月27日(火)から上野原縄文の森で展示しています。上野原縄文の森第60回企画展「どうして?!縄文体験～縄文時代の暮らしを学ぼう～」と併せてご覧ください。



この舷側板は、平成 20 年度の発掘調査で出土し、部材加工の特徴や他の遺跡での出土例、科学分析などから、**国内最古級となる弥生時代前期後半（約 2,500 年前）の準構造船の舷側板であることが判明しました。**

舷側板が出土した中津野遺跡は、東シナ海にそそぐ万之(まの)瀬川(せがわ)の支流の境川(さかいがわ)に面し、下流には弥生時代の貝の交易で有名な高橋貝塚が所在しています。

中津野遺跡から出土した弥生土器からも広域での交易がうかがわれ、当時の造船技術や外洋航海が行われていたことを物語る重要な資料です。

平成 20 年度に埋蔵文化財センターが国道 270 号（宮崎バイパス）改築工事に伴い発掘調査を実施した中津野遺跡で出土した木製品が、国内最古級となる弥生時代前期後半（約 2,500 年前）の準構造船の舷側板（げんそくばん）であることが判明しました。

準構造船：くり船に側板などの木材を組み合わせて、積載量が増えるようにした船

舷側板は、4月27日（火）から上野原縄文の森で展示しています。上野原縄文の森第60回企画展「どうして?! 縄文体験～縄文時代の暮らしを学ぼう～」と併せてご覧ください。



舷側板出土状況写真



舷側板全体写真

舷側板の詳細

1 大きさ

幅約 0.3m×長約 2.73m×厚5cm

2 特徴

下部に径3cm程度の規則的に並ぶ円形のほぞ穴がある(12 か所)。
上部に6×3cm程度の長方形のほぞ穴がある(5か所・一部破損)。
上端部に切り込みがある(6か所)。

3 舷側板と判断した理由

部材の加工の特徴や他の出土事例から判断

4 船の全長

約6m(推定)

5 年代

弥生時代前期後半(BC5世紀～BC4世紀)

6 評価

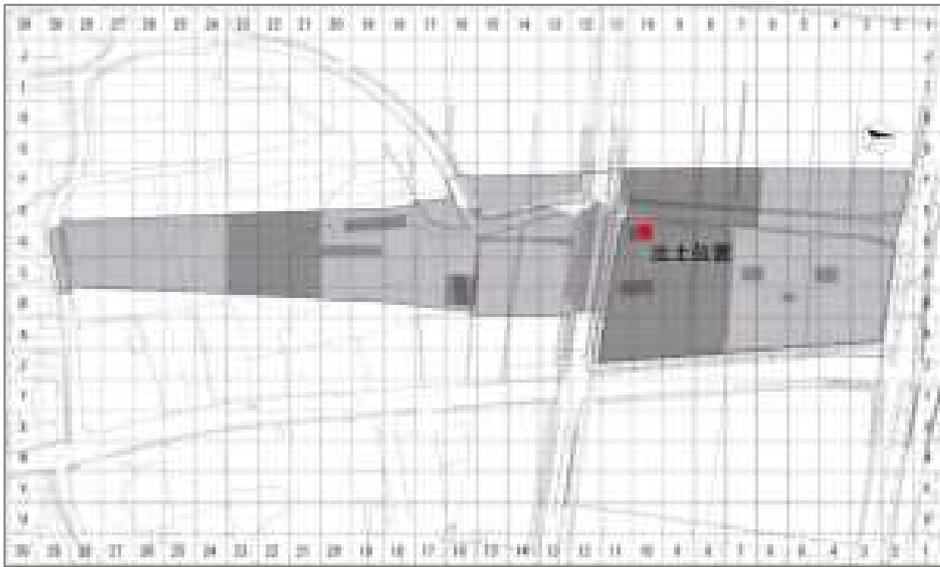
舷側板が出土した中津野遺跡は、東シナ海にそそぐ万之瀬川の支流の境川に面し、下流には弥生時代の貝の交易で有名な高橋貝塚が所在している。中津野遺跡の出土土器からも広域での交易がうかがわれ、当時、高度な造船技術を要する外洋航海が行われていたことを物語る重要な資料である。また、環東シナ海という視点での造船技術や交流を考える上でも貴重である。



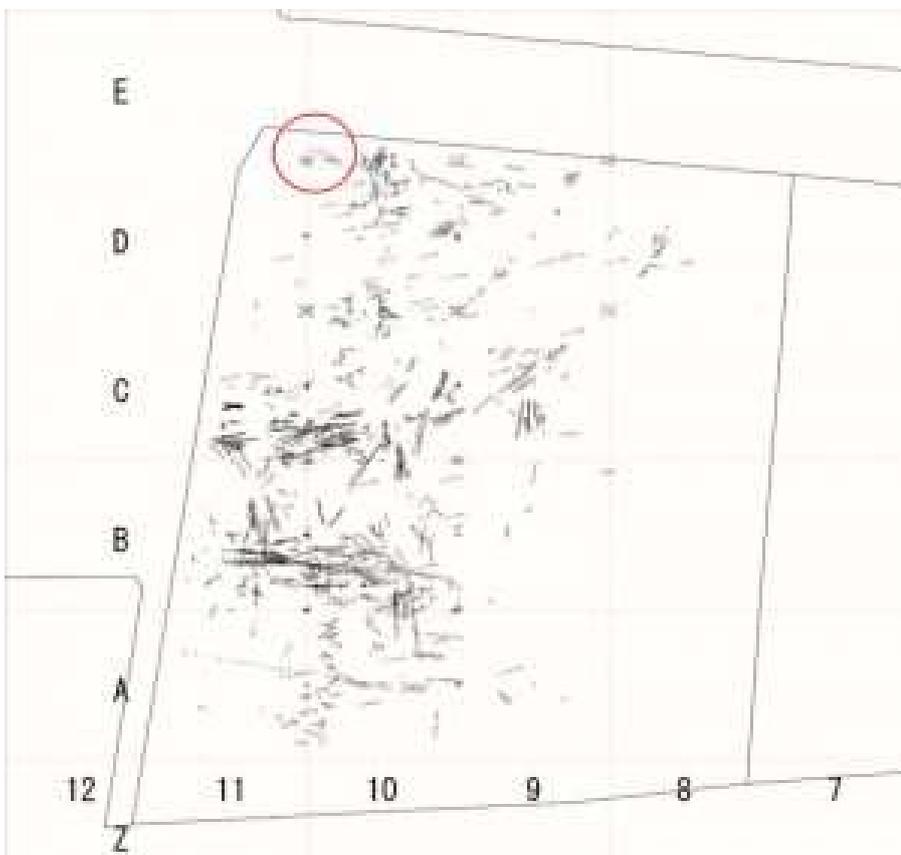
中津野遺跡空撮



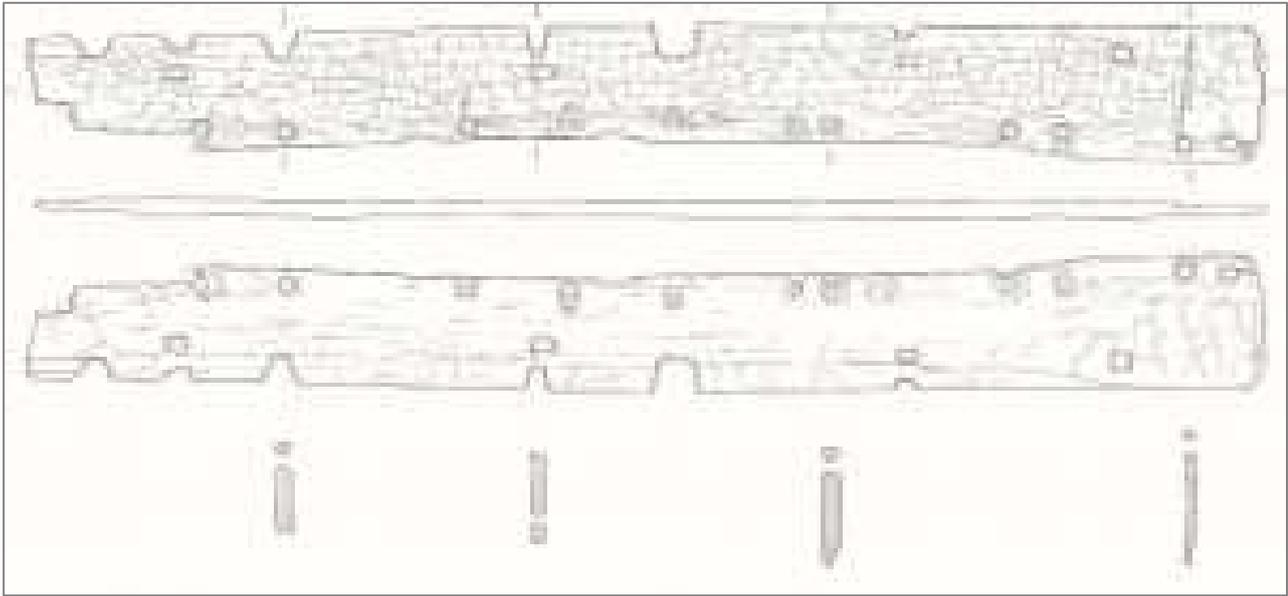
中津野遺跡の位置



舷側板出土位置



木製品集中域出土状況図（○が舷側板出土位置）



舷側板実測図



準構造船復元模型（(公財)大阪府文化財センター作成）



高廻り2号墳出土船形埴輪（国重要文化財・文化庁所蔵）大阪市文化財協会提供